

経営比較分析表（令和2年度決算）

神奈川県小田原市 市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	26	対象	透し未訓方	救臨が災地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
189,425	24,393	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

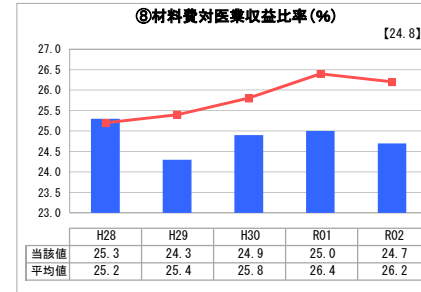
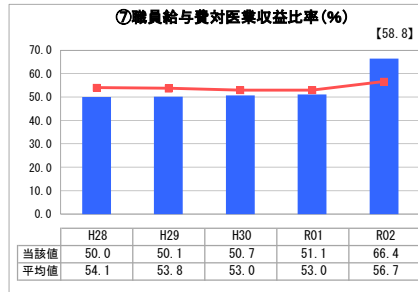
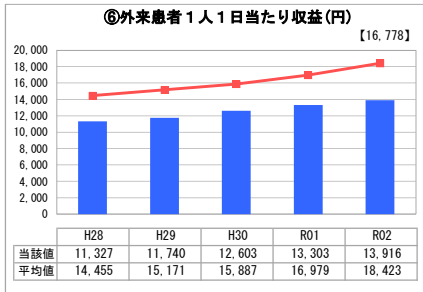
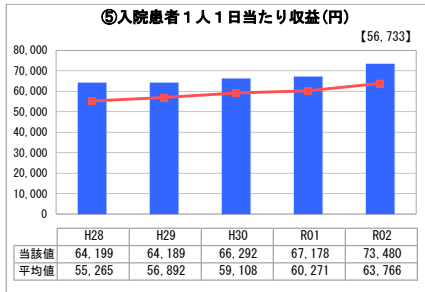
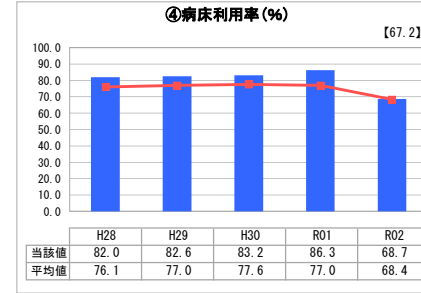
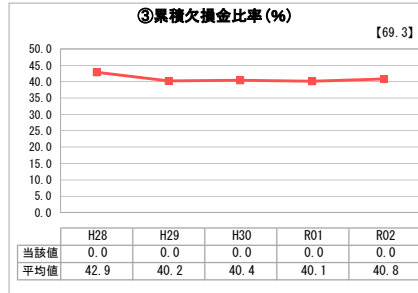
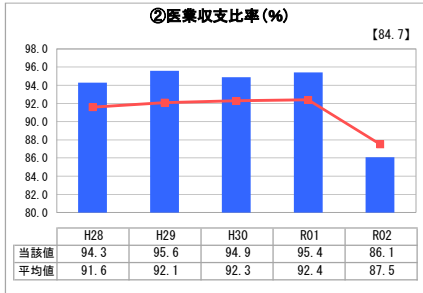
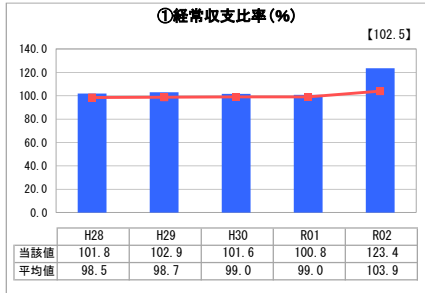
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
417	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	417
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
417	-	417

グラフ凡例

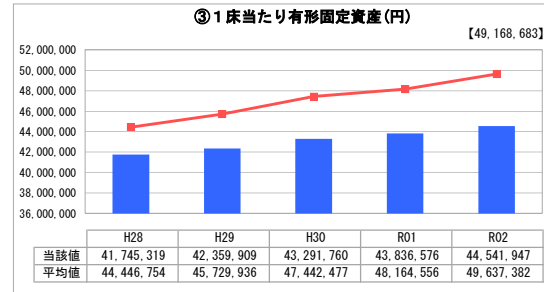
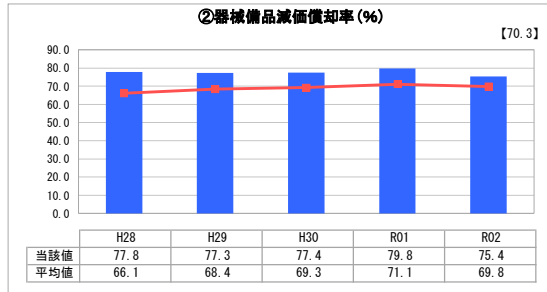
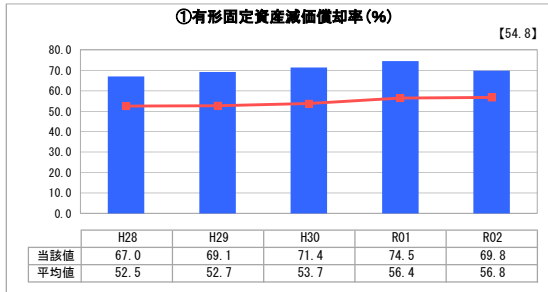
- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）

【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

県西二次保健医療圏における基幹病院として、高度急性期・急性期医療を中心に、救急・小児・周産期といった公立病院に期待される医療を安定的に提供することで、地域の住民が安心できる役割を担うこととします。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
平成28年度以降継続的に100%を超え、経常利益を計上していますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大が当院の経営に大きな影響を与えました。引き続き感染状況に注視しつつ、経営改善に努めていく必要があると考えています。

④病床利用率
⑤入院患者1人1日当たり収益
⑥外来患者1人1日当たり収益
当院では、断らない救急の推進や紹介患者の積極的な受入れに努め、平成28年度以降、患者1人当たりの収益は上昇傾向にありますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から、病床利用率が大きく低下しました。患者単価は、コロナ重症患者への診療を行ったことで増加しました。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
②器械備品減価償却率
当院の建物は建設後38年以上が経過しているほか、医療機器は定期的なメンテナンスを行い、できるだけ長く使用するよう努めています。

減価償却率の数値が平均値を超えていることから、他病院と比べ当院の有形固定資産及び機械備品は老朽化が進んでいると判断できます。現在当院では、老朽化と狭隘化の進む病院施設の建替えに取り組んでおります。新病院が完成するまでの間においても、固定資産の計画的な維持や更新に取り組む必要があると認識しております。

全体総括

「小田原市立病院経営改革プラン」に基づき、病院職員が一丸となり経営改善に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症対応に伴う損失が補助金で補填されたことにより、平成28年度以降5年連続で経常利益及び純利益を計上することができました。

未だ新型コロナウイルス感染症の収束は見えない状況であり、今後も病院経営に影響を及ぼす可能性があります。

また、令和8年春の開院を目指し取り組んでいる新病院建設を着実に進めていくためにも、引き続き経営改善に努めていく必要があると考えています。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。